

平成30年3月10日

愛知県上海産業情報センター
余語 克昭

一般調査報告書
広東省広州市の訪日旅行市場とGITF2018出展報告

愛知県上海産業情報センターでは、広東省および広州市の一般消費者や旅行・観光関係者に向けて、愛知県や昇龍道地域の観光の魅力をPRするため、広東省最大級の国際旅行博覧会「2018広州国際旅游展覧会（GITF2018）」に出展しました。

今回は、広州市の概要や訪日旅行市場に触れつつ、2018広州国際旅游展覧会（GITF2018）出展についてレポート致します。

1. 広東省広州市の訪日旅行市場について

広州市は、中華人民共和国南部（華南地域）の広東省に位置する副省級市で、広東省の省都です。珠江デルタ地帯の北部、西江、北江、東江の合流地点に位置する港湾都市で、華南地域全体の経済・文化・教育・交通等の中心都市であり、中国国務院により、国家中心都市の一つに指定されています。2010年の第16回アジア競技大会開催以来、スポーツの盛んな土地でもあり、日本でも良く知られるACLチャンピオンズリーグ常連の強豪「広州恒大淘宝足球俱樂部」や、名古屋グランパスで選手・監督として活躍したストイコビッチ監督が率いる「広州富力足球俱樂部」の2チームが本拠地としています（2018年3月現在）。また「食は広州に在り」といわれる広東料理の本場でもあり、一般的には食の都というイメージをお持ちの方も多いかと思います。

北京市・上海市と共に中国本土の三大都市の一つに数えられ、2016年の常住人口は1,404.35万人、GDPは19,610.94億元、2015年の一人当たりのGDPは136,188元となっており、北京市（2016年の一人当たりGDPは115,000元）、上海市（同113,600元）と並び、中国でも非常に裕福な都市の一つです。

(参考) 中国主要都市と広東省・広州市・深セン市の経済規模データ

地域	常住人口 (万人)	GDP (億元)	一人当たり GDP (元)	都市住民一人当たり 可処分所得 (元)
広東省全体	10,999.00	79,512.05	72,787	37,684.3
広州市	1,404.35	19,610.94	136,188*	50,940.7
深セン市	1,190.84	19,492.60	167,411	48,695.0
北京市	2,172.90	24,899.30	115,000	57,275.0
上海市	2,419.70	27,466.15	113,600	57,692.0

出典：各市2016年国民経済社会発展統計公報 *2015年データ

広東省の珠江デルタ地域は、1990年後半から2000年中盤にかけて、日系の大手自動車メーカー3社が進出し、自動車産業の集積が進みました。愛知県企業の進出も多く、広東省全体で134社204拠点（うち広州市内には53社75拠点）もの愛知県企業が進出し、ビジネスを展開しています（2016年末時点、あいち産業振興機構調べ）。広州市や近郊の佛山市、東莞市等を中心に、完成車メーカーはじめ自動車関係や電子部品関係の生産拠点が比較的多く立地しています。それに対して、香港と隣接し経済特区に指定されている深セン市は、他都市と比べて生産拠点とともに販売拠点の割合が高くなっていることが特徴となっています。また深セン市は、政府主導で新興事業発展のためのインフラが整えられていることから、スタートアップ企業や製造工場が数多く存在し「中国のシリコンバレー」とも呼ばれ、近年特に発展が著しい街として知られています。

そのような広東省には富裕層も多く、中国富裕層居住地ランクでは、1位の北京市（1,000万元以上の資産保有者数：18.4万人、全国比率17.5%）に次いで、広東省が第2位（同17.2万人、全国比率16.4%）となっており、第3位の上海市（同14.7万人、全国比率14.0%）よりも多くなっています。（出典：JETROシャンハイスタイル2014年4月発行）

富裕者数が多いことに比例して、海外旅行需要も高く、中国人海外旅行者の都市別出発地別データでは、1位の上海市、2位の北京市に次いで3位に深セン市、4位に広州市がランクインしており、訪日中国人観光客の出身省・市ランクでも、1位の上海市、2位の北京市に次いで広東省が3位にランクインしており、訪日旅行市場においても重要なターゲット地域であることが分かりま

す。（出典：中国国家旅游局关于「全国旅行社统计调查情况的公报」、C t r i p 「2016年中国出境旅游者大数据」）

また、複数回の訪日旅行経験を有しているリピーターの比率も高く、観光庁の「訪日外国人消費動向調査 日本への来訪回数（観光・レジャー目的）」及びJ N T Oの「2016年広東省イベント出展事業来場者アンケート集計結果」によれば、訪日旅行経験回数が2・3回目というリピーターの比率は、中国人全体では22.9%であったのに対し、広東省では31.2%、4～9回も日本を訪れているヘビーリピーターでは、中国人全体が7.9%であったのに対し、広東省では9.9%と、いずれも全国平均値よりも高くなっています。

旅行先で何をするかという調査においても、その土地ならではの文化や体験を楽しむ、スポーツをする、コンサートや舞台を観に行くといった項目について、中国全体平均値よりも比較的高い数値となっており、いずれも旅行市場の成熟化が見受けられる結果となっています。これらのことから、中国沿岸都市部で近年見られるF I T化、モノ消費よりコト消費へのシフト等の傾向が、広東省においても顕著に見られると言えます。

訪日観光の旅行先としては、直行便が多い関東が圧倒的なシェア（44.9%、2016年データ、出典：J N T O）となっており、また、亜熱帯気候に属する広東省では雪が見られないため、特に冬場は北海道の人気が高まるという傾向が強いようです。

2. 2018広州国際旅游展覧会（G I T F 2018）出展報告

さて、2018年3月1日から3日間、その広州市の中国進出口商品交易会館において開催された「2018広州国際旅游展覧会（G I T F 2018）」に、上海に駐在員事務所を設置する中部地域の6県（石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県）の上海事務所合同で、「チーム昇龍道」として出展し、昇龍道地域及び各県の観光の魅力をP Rしました。

今回は、一般財団法人自治体国際化協会（クレア）北京事務所の設置したブースを活用させていただき、同ブースにて同じく観光P Rを行ったクレア、他県市（福島県、徳島県、沖縄県、札幌市）と一体となって、オールジャパンで広州市の一般消費者や旅行社に向けてP Rを行いました。

【2018広州国際旅游展覧会（G I T F 2018）概要】

- ・ 会期：2018年3月1日（木）～3日（土）
- ・ 開催地：広東省広州市
- ・ 会場：中国進出口商品交易会館C区
- ・ 主催：汉诺威米兰展览(上海)有限公司
- ・ 展示規模：36,000㎡
- ・ 出展数：53カ国及び地域から1,029団体
（うち、68%は海外からの出展）
- ・ 来場者数：3日間のべ17.66万人（前年比24.1%増）
うち、バイヤー等専門来場者は3,7334人
（前年比19.5%増）

※各数値は中国内報道より

広州国際旅游展覧会（GITF）は、1993年に始まり、2018年で26回目を迎え、中国内はもとより、日本やアジア各国から多数の観光関係者が集う広東省最大級の国際旅行博覧会です。国際観光展示館、中国内観光展示館、中国系旅行社展示館の隣接する3つの会場において、世界各国・地域等の観光PRブースの他、中国系旅行社の店舗ブースが出展し、その場でツアー販売も行われました。各旅行社とも、展覧会に向けて目玉商品を取り揃え、各旅行社店舗ブースでは、非常に多くの来場者が熱心に販売員の説明に耳を傾け、ツアーを購入する姿が見られ、3日間の会期中、大変な賑わいを見せました。

昇龍道ブースにも想定以上の多くの来場者に訪れていただき、非常に熱心に観光情報を収集する姿に、当地の訪日観光需要の大きさ、日本への興味の高さを実感させられました。



昇龍道ブースでのPR風景



昇龍道ブースでのPR風景



旅行社ブースでは目玉商品の価格が並ぶ



旅行社ブースでの販売風景

上海産業情報センターでは、今後も引き続き、中国一般消費者への愛知・名古屋、昇龍道の観光知名度の向上や、現地訪日観光市場関連情報の発信など、中国からのインバウンド訪日観光客増加に向けた取り組みを進めてまいります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。